

drbdmeta

名前

drbdmeta — DRBD のメタデータ管理ツール

指定方法

```
drbdmeta { device } [ v06 minor | v07 meta_dev index | v08 meta_dev index ] { command }  
[ cmd args...]
```

説明

drbdmeta は、DRBD メタデータを作成、内容表示、あるいは変更する。通常はフロントエンドの drbdadm コマンドを使うため、このコマンドを直接使用する必要はない。

このコマンドは、DRBD リソースを無効にしてある場合、もしくは少なくとも下位レベルストレージから切り離してある場合のみ動作する。最初の引数は、リソースに結び付けたデバイス名である。第 2 引数はメタデータのバージョンで、現在の主要な全バージョン (0.6、0.7 および 8.0) が指定できる。

コマンド

create-md

メタデータストレージを作成する。DRBD リソースを初めて利用する場合、オンラインにする前にこのコマンドを実行する必要がある。すでに古いバージョンのメタデータが存在する場合、drbdmeta は指定したバージョンの形式に変換するかどうかを尋ねる。

get-gi

データ世代識別パート (data generation identifiers) の情報を簡潔なテキスト情報として表示する。バージョン 0.6 および 0.7 形式のメタデータには世代カウンタがあるが、バージョン 8 では UUID が表示される。

show-gi

データ世代識別パート (data generation identifiers) の情報を、説明テキストとともにテキスト情報として表示する。

dump-md

メタデータの全内容をテキスト形式でダンプする。ダンプにはビットマップとアクティビティログも含まれる。

outdate

メタデータの「時代遅れ」フラグをセットする。他ノードが自ノードと通信できない状態でプライマリ状態になりたい場合、他ノードからのリモート実行でこのコマンドが実行される。

dstate

下位レベルストレージの状態を表示する。drbdmeta はローカルメタデータのみアクセスするため、出力にははつねに'DUnknown'が表示される。

熟練者向けのコマンド

drbdmeta を使うと、メタデータの内容を変更できる。以下のコマンドは、コマンド自身の使用法表示から意図的に削除してある。これは、何をしているのか明確に理解した上で実行しないと危険なためである。データ世代識別パートに間違った値をセットすると、古いデータで最新データを上書きしてしまうなどのリスクが生じる。

set-gi *gi*

データ世代識別パートに値をセットする。*Gi* にはバージョン 0.6 および 0.7 では世代カウンタを、バージョン 8.0 では UUID を指定する。get-gi で表示された値と同じ値を指定すること。

restore-md *dump_file*

dump_file を読み込んで、その内容をメタデータに書き込む。

バージョン

このドキュメントは DRBD バージョン 8.2.2 向けに書かれている。

著者

Philipp Reisner <philipp.reisner@linbit.com>、Lars Ellenberg <lars.ellenberg@linbit.com>

バグ報告方法

バグについては、<drbd-user@lists.linbit.com>宛のメールで報告してほしい。

著作権

Copyright 2001-2008 LINBIT Information Technologies, Philipp Reisner, Lars Ellenberg. This is free software; see the source for copying conditions. There is NO warranty; not even for MERCHANTABILITY or FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE.

本マニュアルの日本語版の翻訳著作権は、株式会社サードウェアが保有しています。

参照

drbdadm(8)